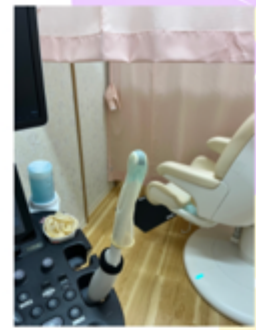


子宮・卵巣超音波検査

検査方法

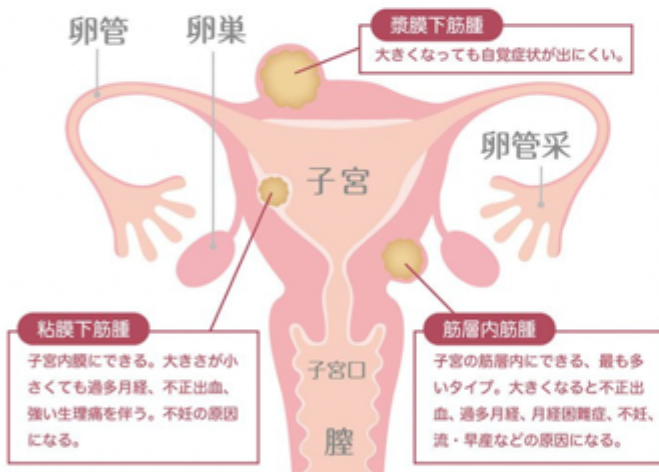
経膈プローブという超音波機器を膈内に挿入し撮影をします。痛みはほとんどありません。天井のモニターで画像を見ながら検査が受けられます。

所要時間 2～3分



超音波検査でわかること

不妊、流早産の原因となる病気がないか調べる事ができます。



子宮筋腫

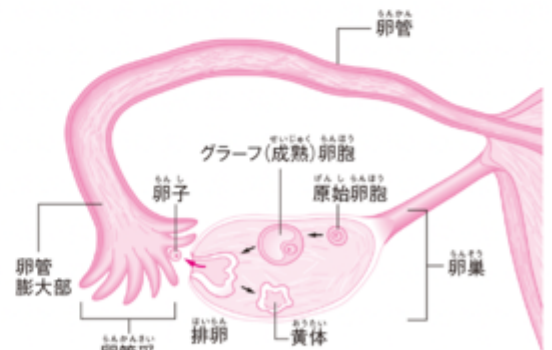
それ以外にも子宮内膜の厚みと卵胞の大きさを計測することで、正しく排卵がおこっているかを確認することができます。

内膜症で不妊となる理由



- ① 排卵しない
・LUF(癒着による)
- ② 卵管周囲の癒着で卵の取り込みができない
- ③ 炎症による卵巣機能の低下
- ④ 子宮筋層内が炎症を起こし、着床障害となる(子宮腺筋症など)
- ⑤ 炎症細胞の影響で精子や卵子に障害を及ぼす

子宮内膜症



卵胞発育モニタリング

異常が見つかったとき

MRI検査等で、さらに詳しく調べる事が可能です。